

【工業用水道事業会計】

1. 事業の概要

本年度の給水量は1,027,229 m³で、前年度に比べ、63,781 m³の増加となっている。

使用料については、キリンビール株式会社から朝倉市工業用水道使用料条例に基づき徴収している。

2. 予算の執行状況について（消費税を含む。資料第3表）

（1）収益的収入及び支出（予算第3条）

収益的収支の決算を収支別にみると、収益的収入は、予算額 166,590 千円に対し、決算額 166,313 千円（執行率 99.8%）で、前年度と比較し 19,550 千円増加している。この主な要因は、長期前受金戻入が増加したことによる。

支出は、予算額 155,967 千円に対し、決算額 136,575 千円（執行率 87.6 %）で、前年度と比較し 25,388 千円増加している。この主な要因は、減価償却費が増加したことによる。

（2）資本的収入及び支出（予算第4条）

資本的収入は、予算・決算額ともに 0 円で、前年度と比較すると 25,604 千円減少している。この主な要因は、工事負担金が減少したことによる。

支出は、予算額 26,115 千円に対し、決算額は 23,225 千円（執行率 88.9%）で、前年度と比較し 34,633 千円減少している。この主な要因は、企業債償還額が増加したものの建設工事費が減少したことによる。

決算収支の均衡については、資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額 23,225 千円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額、過年度分損益勘定留保資金をもって補填されている。

（3）流用禁止の経費（予算第6条）

議会の議決を経なければ流用することができない経費として、職員給与費 41,736 千円が予算に定められているが、他の経費との予算流用の事実は認められなかった。

（4）他会計からの補助金（予算第7条）

一般会計からの補助金は 160 千円受け入れている。

（5）たな卸資産購入限度額（予算第8条）

たな卸資産購入限度額 3,000 千円に対し、本年度の購入はない。

（6）債務負担行為の事項、期間及び限度額

債務負担行為の事項、期間及び限度額は次のとおりで、本年度の支払額は 251 千円となっている。

事項	限度額	前年度末までの支払義務発生（見込）額		当該年度以降の支払義務発生予定額		左の財源内訳
		期間	金額	期間	金額	自己資金
土木積算システム更新事業	千円 1,303	令和3年度	千円 251	令和4年度から 令和7年度まで	千円 1,052	千円 1,052

3. 経営成績について（消費税を含まない。資料第5表）

令和4年度の経営成績は、損益計算書に示されているとおり

工業用水道事業収益	154,267,766円
工業用水道事業費用	129,891,689円
当年度純利益	24,376,077円

となっている。

以下、収益及び費用について述べると次のとおりである。

(1) 収益について

営業収益は、キリンビール株式会社の水道使用料等で120,460千円となっている。水道使用料については契約給水量の日量15,000m³、年間(365日)5,475,000m³に基本料金(1m³当たり22円)を乗じた額120,450千円が収納されている。

営業外収益は、長期前受金戻入、他会計補助金で33,795千円となっており、前年度と比較し19,527千円増加している。この主な要因は、長期前受金戻入が増加したことによる。

(2) 費用について

営業費用は、126,648千円で、前年度と比較し28,439千円増加している。この主な要因は、減価償却費が増加したことによる。

営業外費用は、3,244千円で、前年度と比較し6千円増加している。

(3) まとめ

経営成績については、毎年利益を生じているが、本年度は前年度と比較し8,871千円少ない24,376千円の当年度純利益となっている。

経営内容については、資料第2表「経営分析表」のとおり、前年度、前々年度及び全国平均と比較して概ね良好といえる。

4. 財政状態について（資料第6表）

財政状態を表示する貸借対照表についてみると、本年度の資産合計及び負債・資本合計は2,743,956千円で、前年度と比較し63,422千円減少している。

以下、資産・負債・資本について、その概要を述べると次のとおりである。

(1) 資産

資産は固定資産及び流動資産より構成され、固定資産は2,029,695千円(資産総額の74.0%)で、前年度と比較し58,090千円減少している。

この主な要因は、構築物やダム使用権が減少したことによる。

流動資産は714,261千円(資産総額の26.0%)で、前年度と比較し5,332千円減少している。この主な要因は、有価証券が増加したものの、現金や未収金が減少したことによる。

(2) 負債

負債は固定負債、流動負債及び繰延収益により構成され、固定負債は643,008千円で前年度と比較し25,739千円減少している。この主な要因は、工業用水道導水管更新工事に伴う企業債が減少したことによる。

流動負債は33,915千円で、前年度と比較し28,425千円減少している。この主な要因は、未払金が減少したことによる。

繰延収益は985,186千円で、前年度と比較し33,635千円減少している。この主な要因は、長期前受金収益化累計額が減少したことによる。

(3) 資本

資本は1,081,848千円で、前年度と比較し24,376千円増加している。

以下、資本金と剰余金に区別して述べると、資本金は124,717千円で、前年度と同額となっている。

剰余金は957,130千円で、前年度と比較し24,376千円増加している。この主な要因は、減債積立金が増加したことによる。

(4) まとめ

本年度の財政状態については、資料第2表「経営分析表」に示しているとおりである。

営業収支比率は、前年度より下降し、100%未満となり営業損失が生じている。支払能力を示す流動比率については、前年度より上昇しており、短期支払能力は充分であると言える。

また、事業の安定性を示す指標とされ、数値が高い方がよいとされる自己資本構成比率については、前年度より上昇している。事業の長期的安定性を示す指標とされ、100%以下が望ましいとされている固定資産対長期資本比率については、前年度より下降している。その他の各分析指数の評価値を全国平均と比較してみても良好と言える。

5. むすび

以上が、令和4年度朝倉市工業用水道事業会計の決算審査の概要である。

平成28年度から実施されてきた工業用水道導水管布設工事については令和2年度で完了し、不要になった施設（水管橋等）の撤去工事は令和3年度で完了した。今後は健全な経営を維持していくため、更なる事業の効率化、経営の改善や合理化に努められるよう望むものである。